

厚生労働科学研究費補助金(移植医療基盤整備研究事業)  
平成29年度～令和元年度 総合研究報告書  
分担研究報告書

JOTと都道府県コーディネーターと院内コーディネーターの共通視点からの選択肢提示と普及啓発に関する研究

研究分担者 朝居 朋子 藤田医科大学保健衛生部看護学科 准教授

研究協力者 竹田 昭子 公益財団法人長崎県健康事業団 長崎県臓器移植コーディネーター

研究要旨:

臓器提供の選択肢提示(情報提供)を一般市民がどのように思っているかを明らかにし、院内移植コーディネーターと臓器移植コーディネーターの連携の在り方を検討することを目的とした。平成 29(2017)年度に実施した日本国民 2,000 名に対するインターネット調査では、臓器提供の選択肢提示を「よい取り組み」と評価する人は 8 割いたが、家族の救命が困難となった場合に臓器提供を思いつく人は 3 割に満たなかった。選択肢提示の実施者として主治医が最も支持されたことから、治療の継続性の中で選択肢提示を行うことが良いことが示唆された。患者の治療に携わってきた主治医は選択肢提示の実施に負担感を感じることもあるため、院内移植コーディネーターによるサポートが重要であると考え、平成 30(2018)年度、全国の 5 類型施設を対象に院内移植コーディネーターの業務について調査した。院内移植コーディネーターは、日常的にはマニュアル作成・改訂、会合の開催・参加、シミュレーション等の体制整備、提供時は臓器移植コーディネーターや院内関係部署への連絡調整、家族説明の同席や質問対応を主に行っていた。院内移植コーディネーターは、臓器提供事例発生時臓器移植コーディネーターと連携して業務を行うため、令和元(2019)年度、全国の 5 類型施設の院内移植コーディネーターを対象に、臓器移植コーディネーターに期待する機能に関する調査を行った。院内移植コーディネーターが臓器移植コーディネーターに期待することは、日常的な関わりにおいては、質問や疑問への対応、臓器提供・移植に関する情報提供、院内移植コーディネーターの活動支援であった。臓器提供事例においては、家族面談(承諾書作成)時の迅速な対応、提供に関わる様々な問題の解決や助言、臓器提供の適応がある患者家族への選択肢提示(情報提供・意思確認)や臓器の適応評価の判断に関する相談対応であった。臓器移植コーディネーターは、院内移植コーディネーターをはじめとする 5 類型施設の医療者と日常的に良好な関係を築き、選択肢提示前の相談から臓器提供に至るまで迅速かつ適切に対応することが重要である。それにより信頼関係が構築され、医療者側の選択肢提示の促進につながると考える。

A. 研究目的

臓器提供の選択肢提示(情報提供)を一般市民がどのように思っているかを明らかにし、院内移植コーディネーターと臓器移植コーディネーターの連携の在り方を検討することを目的とした。

B. 研究方法

(1)平成29(2017)年度:インターネット調査会社((株)クロス・マーケティング、東京)登録モニターを対象に、電子調査票を用いた間接的な自記式調査を2018年1月30～31日に行なった。対象者は、日本全国の18歳～79歳の日本国籍を有する男女2,000名、地点数は47都道府県とし、年代・居住地は人口構成比に近づくよう抽出し、28,166名に配信し

た。

(2)平成20(2018)年度:臓器移植法ガイドライン上の5類型に該当する施設(2018年12月現在904施設、内訳[重複あり]:大学附属病院134施設、日本救急医学会の指導医指定施設120施設、日本脳神経外科学会の基幹施設又は連携施設827施設、救命救急センターとして認定された施設285施設、日本小児総合医療施設協議会の会員施設30施設)に所属する院内移植コーディネーター(各施設代表者1名)に対し、2019年2月無記名自記式質問紙調査(郵送法)を行った。

(3)令和元(2019)年度:臓器移植法ガイドライン上の5類型に該当する施設(2019年12月現在899施設、内訳[重複あり]:大学附属病院144施設、日

本救急医学会の指導医指定施設 128 施設、日本脳神経外科学会の基幹施設又は連携施設 850 施設、救命救急センターとして認定された施設 290 施設、日本小児総合医療施設協議会の会員施設 36 施設)に所属する院内移植コーディネーターとし、214 施設 1,042 名を対象とし、2020 年 1~3 月無記名自記式質問紙調査(郵送法)を行った。

(倫理面への配慮)

藤田医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、学長の承認を得て実施した(HM17-333、HM18-380、HM19-312)。

## C. 研究結果

### (1) 平成29(2017)年度

全国2,000名から回答を得た。臓器提供の選択肢提示を「よい取り組み」と評価する人は81.7%であったが、家族の救命が困難となった場合に臓器提供を思いつく人は27.5%であった。選択肢提示の実施者として主治医が最も支持された。選択肢提示を「されたい」23.2%、「わからない」が過半数であった。

### (2) 平成30(2018)年度

回収・有効回答数は、335施設(37%)であった。5類型施設の65%で院内移植コーディネーターが設置されており、多くは複数人設置していた。職種は看護師が96%、次いで医師37%であった。日常業務としては、主に臓器・組織提供のマニュアル作成・改訂、院内移植コーディネーター等の関係者の定期的な会合の開催・参加、臓器・組織提供のシミュレーションがあげられ、体制整備に注力していた。提供時の業務では、院外移植コーディネーターへの連絡調整が最多で、次いで院内の連絡調整であり、家族説明の同席や質問対応といった家族対応業務も多く、院内移植コーディネーターが患者家族への情報提供(臓器・組織提供の選択肢提示)をしている施設は約半数であった。

### (3) 令和元(2019)年度

5類型施設の院内移植コーディネーター659名(回収率63.2%)から回答を得た。院内移植コーディネーターは臓器移植コーディネーターに対して、専門的知識の供与、情報提供、迅速かつ臨機応

変な対応、事例がうまく運ぶことを望んでいた。

日常的な関わりにおいては、質問や疑問への対応、臓器提供・移植に関する情報提供、院内移植コーディネーターの活動支援であった。臓器提供事例においては、家族面談(承諾書作成)時の迅速な対応、提供に関わる様々な問題の解決や助言、臓器提供の適応がある患者家族への選択肢提示(情報提供・意思確認)や臓器の適応評価の判断に関する相談対応であった。

院内移植コーディネーターが臓器移植コーディネーターの機能として重要だと思っていることは、いつでも迅速かつ臨機応変に対応できること、臓器提供に不慣れな病院でも事例がうまく運ぶよう対処できること、最新の情報提供、移植側に偏らないこと等であった。

## D. 考察

家族が救命困難となった場合に臓器提供を思いつく人が少ない(27.5%)からこそ、医療者側から適切なタイミングで臓器提供の機会があることを告げることは、潜在的な意思を把握するには有効である。そして、選択肢提示を良い取り組みと評価する人が8割以上いることから考えると、医療者側が懸念するよりも一般市民は選択肢提示を好意的に受け止めているといえよう。

一方で、家族が救命困難となった場合に臓器提供の選択肢提示を「されたい」人は約2割で、「わからない」人が半数以上を占めた。すなわち、一般市民は臓器提供の選択肢提示は「よい取り組み」と評価するものの、実際にされたいかという意見は異なっていた。臓器提供の選択肢提示は、救命しえなかった場合に行われ、そのような場面はめったに経験するものではないため、その実際を想像しにくいのではないかと考える。従って、一般啓発の際には、選択肢提示の意義やタイミング、言葉かけなどの実際を紹介し、選択肢提示の受容を促進する必要がある。

選択肢提示の実施者として、主治医が最も支持されたことから、治療の継続性の中で行うことが良いことが示唆された。しかしながら、ずっと治療にあたってきた主治医が選択肢提示をすることに対して、主治医側の負担感は否めない。そこで、院内移植

コーディネーターが主治医をサポートするなど、主治医の負担感軽減につながる策を見出す必要がある。実際、約半数の施設で院内移植コーディネーターが患者家族への情報提供(臓器・組織提供の選択肢提示)を行っていた。その際の留意点は、唐突に臓器提供の話が出てきたと患者家族に思われぬように、主治医と十分連携して治療の継続性の中で関わることである。

院内移植コーディネーターは、臓器移植コーディネーターに対し臓器提供の適応がある患者家族への選択肢提示や臓器の適応評価の判断に関する相談対応を期待していたことから、早い段階から連絡を取りあい、臓器移植コーディネーターが院内移植コーディネーターをサポートする体制を整えることが重要である。その際、臓器移植コーディネーターが移植側に偏っている(レシピエント優位)と思われれば、院内移植コーディネーターはじめ 5 類型施設の医療者の信頼は得られないであろう。一方、提供された臓器を適切に移植につなげることも臓器移植コーディネーターの重要な任務である。ドナーとレシピエントをつなげるという存在であり、バランス感覚を持つことが欠かせない。また、院内移植コーディネーターは、迅速で臨機応変な対応を望んでいるため、臓器移植コーディネーターは院内移植コーディネーターと日常的に連携し、院内移植コーディネーターの期待に応えられるように研鑽を積む必要がある。

臓器移植コーディネーターは、院内移植コーディネーターをはじめとする 5 類型施設の医療者と日常的に良好な関係を築き、選択肢提示前の相談から臓器提供に至るまで迅速かつ適切に対応することが重要である。それにより信頼関係が構築され、医療者側の選択肢提示の理解促進につながると考える。

#### E. 結論

選択肢提示を「良い取り組み」と評価する人は 8 割以上あったことから、選択肢提示に対する国民の受容性は良好である一方で、家族の救命が困難となった場合に臓器提供を思いつく人は 3 割未満であった。医療者から適切なタイミングで臓器提供の機会があることを患者家族に告げることは、潜

在的な意思を把握するために有効であるといえる。患者家族が違和感なく受け入れられる選択肢提示の在り方を検討し、選択肢提示に対する医療者の負担軽減策を見出す必要があると同時に、一般市民に対して臓器提供の選択肢提示の実際をイメージできるような啓発活動を行う必要がある。

院内移植コーディネーターは選択肢提示において主治医をサポートする立場にあるが、その院内移植コーディネーターをサポートするのが臓器移植コーディネーターである。臓器移植コーディネーターは、院内移植コーディネーターをはじめとする 5 類型施設の医療者と日常的に良好な関係を築き、選択肢提示前の相談から臓器提供に至るまで迅速かつ適切に対応することが重要である。それにより信頼関係が構築され、医療者側の選択肢提示の理解促進につながると考える。

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) 竹田昭子,平尾朋仁,望月保志,錦戸雅春,松屋福蔵,田崎修:長崎県における臓器提供に関する院内体制の整備とその効果.腎移植・血管外科 2017; 27(2):156-164.
- 2) 大仁田亨,山崎安人,岩田隆寿,望月保志,錦戸雅春,竹田昭子,松屋福蔵:移植床の確保に難渋し長時間の手術を余儀なくされた献腎移植の 1 例.腎移植・血管外科 2017;28(1):27-30.
- 3) 大仁田亨,山崎安人,辻清和,山下鮎子,川崎智子,濱村みどり,竹田昭子,大坪亜紗斗,中西裕美,望月保志,錦戸雅春,松屋福蔵: 血流再開後の移植腎動脈血栓のため再灌流,再吻合を要した献腎移植の 1 例. 日本臨床腎移植学会雑誌 2017;5(1):54-57.
- 4) 朝居朋子,竹田昭子,横田裕行:日本人の臓器移植に対する考え方と死後の臓器提供の選択肢提示に対する受容性に関する調査研究.移植 2019;54(2・3):151-159.
- 5) 竹田昭子,北村聖,江口有一郎: 選択肢提示数や臓器提供数に影響する因子としての都道府県臓器移植コーディネーターと医療機関の関係促進に関する研究. 日本臨床腎移植学会雑誌2019;7(2):174-184.

2. 学会発表
- 1) 朝居朋子,川原千香子,西山都師恵,北村眞弓: 医療・看護におけるコーディネート(調整)機能を構成する要素と機能発揮のための能力に関する調査研究. 第53回日本移植学会, 2017年9月.移植2017;52:457.
  - 2) 朝居朋子,竹田昭子: 臓器提供の選択肢提示に対する国民の受容性についてのインターネット調査. 第51回日本臨床腎移植学会,2018年2月.プログラム・抄録集;221.
  - 3) 竹田昭子,平尾朋仁,中道親昭,上之郷眞木雄,江口晋,田崎修: 長崎県内全三次救急医療施設におけるドナー適応症例の実態調査. 第30回日本脳死・脳蘇生学会総会,2017年6月. 脳死・脳蘇生2015;28(1):65.
  - 4) 竹田昭子,平尾朋仁,岩根紳治,田崎修,江口有一郎: 一般市民に対する選択肢提示に関する意識調査. 第33回腎移植・血管外科研究会,2017年7月.プログラム・抄録集.27.
  - 5) 竹田昭子,平尾朋仁,岩根紳治,三馬聡,中尾一彦,田崎修,江口有一郎: 症例で評価した臓器提供に関わる医療コストの検討. 第53回日本移植学会, 2017年9月.移植2017;52:412.
  - 6) 朝居朋子,竹田昭子: 死後の臓器提供の意思決定に際し、患者の家族が必要とする情報に関するインターネット意識調査. 第54回日本移植学会総会,2018年10月. 移植2018;54:339.
  - 7) 朝居朋子,竹田昭子: 臓器移植コーディネーターの認知度と印象に関する意識調査. 第52回日本臨床腎移植学会,2019年2月.プログラム・抄録集52:205.
  - 8) 朝居朋子,竹田昭子: 臓器提供者やその家族に対する措置についての意識調査. 第52回日本臨床腎移植学会,2019年2月.プログラム・抄録集52:76.
  - 9) 竹田昭子,北村聖,江口有一郎: 選択肢提示数や提供数に影響する因子としての県Coと主治医の関係. 第52回日本臨床腎移植学会, 2019年2月.プログラム・抄録集52:205.
  - 10) 朝居朋子,竹田昭子: 5類型施設の院内移植コーディネーターの設置状況と業務上の困難や課題に関する調査. 第53回日本移植学会総会. 2019年10月.移植2019;54:159.
  - 11) 竹田昭子,北村聖,江口有一郎: 臓器提供数と都道府県臓器移植コーディネーターの医療機関への活動との関連性の検討. 第53回日本移植学会総会. 2019年10月.移植2019;54:148.
- G. 知的所有権の取得状況
1. 特許取得  
なし
  2. 実用新案登録  
なし
  3. その他  
なし